

秋の文化イベント

CALENDAR

この秋行われる、主な文化イベントを紹介します。

百花繚乱 「みしまの文化百花繚乱」登録プログラム
三島の秋 「三島の秋 2018」登録プログラム
 ※両プログラムとも、詳細は市内公共施設（公民館など）で配架するパンフレットでご確認ください。

☎文化振興課 ☎983・2756

8月

30日(木)

百花繚乱 藍・ウィンディかまくら「秋を先取り藍染め展」
 ～9月4日(火) 午後3時まで
 時 午前10時～午後5時 場 みしまプラザホ
 テル・ギャラリープラザ 費 無料

9月 9月中旬までのイベントを紹介!

1日(土)

三島の秋 駿豆ハーモニカフェスティバル
 時 午前11時～午後4時
 場 市民文化会館大ホール 費 無料

三島の秋 菅谷章写真展 わが町三島からの富士山
 ～29日(土)まで
 時 午前11時～午後5時(月・火曜は休み)
 場 茶房「壺中天」(芝本町5-30) 費 無料

百花繚乱 三島の街の歴史を空から確認しよう
 ～11月30日(金)まで
 時 午前10時～午後7時
 場 大社の杜 みしまほか 費 無料

2日(日)

百花繚乱 第2回 シャギリフェスティバル
 時 午後1時～8時30分 場 市民文化会館
 大ホール 費 無料 ※要入場整理券

5日(水)

三島の秋 和泉順夫&大正琴ファミリーズ
 チャリティーコンサート
 時 午後0時30分～4時 場 市民文化会館
 大ホール 費 前売800円、当日1,000円

6日(木)

百花繚乱 ハネハNZ 革作品展
 ～11日(火) 午後5時まで
 時 午前10時～午後6時 場 みしまプラザホ
 テル・ギャラリープラザ 費 無料

百花繚乱 2018Group草の会 洋画展
 ～11日(火) 午後5時まで
 時 午前10時～午後6時
 場 Via701・ギャラリー701 費 無料

8日(土)

三島の秋 百花繚乱 ヴァイオリン・ピアノデュオコンサート「水紋Ⅰ」
 時 午後7時～8時30分 場 市民文化
 会館 費 4,000円(高校生以下2,500円)

13日(木)

百花繚乱 着物リメイクAya展【和布に魅せられて】
 ～18日(火)まで
 時 午前10時～午後4時 場 みしまプラザホ
 テル・ギャラリープラザ 費 無料

15日(土)

百花繚乱 Original Acoustic Music Fes Vol.4
 時 午後1時～8時
 場 県総合健康センター 費 無料



▲昨年9月の「第1回シャギリフェスティバル」

① 三島の街の歴史を空から確認しよう(上記参照)	二社パソコープ
② 第2回シャギリフェスティバル(上記参照)	シャギリフェスティバル実行委員会
③ Original Acoustic Music Fes Vol.4(上記参照)	オリフェス実行委員会
④ 第12回小さな秋のコンサート(10月27日(土))	女声合唱「コール・アンダンテ」
⑤ シンポジウム「三島の古代史は日本一おもしろい」(10月27日(土))	三島の古代史は日本一おもしろい会

「みしまの文化百花繚乱」活動費補助事業の紹介

9～11月にかけて行われる登録参加型市民文化フェスティバル「みしまの文化百花繚乱」の開催に当たり、補助金要望のあった12団体のうち、特に開催効果が期待されるプログラム5件を補助採択しました。(限度額10万円)

【凡例】 時とき・場場所・内容・講師・費用(記載なしは無料)・対象・定員・持ち物・注意事項・申込み(記載なしは不要)・問合せ

歴史の小箱

No.363

近代三島を作った人々

今回は現在開催中の企画展から幕末・明治に三島で活躍した人々のうち、教育に関わった三人を紹介します。

【世古六太夫】

幕末の慶応四年（一八六八）五月、北伊豆を守る官軍と旧幕府方の遊撃隊が三島宿内で衝突寸前となりました。この危機から宿場を救った一人が本陣家である時宿場の責任者（問屋役）だった世古六太夫です。六太夫は両軍を説得して衝突を回避することに成功します。

郷土資料館 ☎ 971・8228

企画展「近代三島を作った人々ー前期：政治・教育編ー」開催中！

9月24日（月・振休）まで、後期10月13日（土）～1月3日（休）

明治に入り、宿駅制の廃止により荷物の継立がなくなると、六太夫は郵便事業の基礎を築き、荷物の輸送を担う内国通運会社の経営に乗り出します。また、教育に熱意をもって取り組み、幕臣で優れた漢学者の吉原守拙・呼我父子を三島に招き、伊豆で初めての小学校となる開心庵舎を創設する中心となり

ます。開心庵舎は「官立三島学校」「公立三島養」と校名が変わりますが、今の市役所の地に洋風建築の三島学校を建てる時は多額の寄付をおこないました。



▲世古六太夫肖像

【吉原守拙】

吉原守拙は漢学と長沼流兵学を修め、望まれて幕臣吉原氏の養子となり、山岡鉄舟や関口隆吉（後の静岡県令）など門弟が多くいました。明治維新後は三島に移住し、明治四年（一八七二）から私塾開心庵舎を任せられます。この塾は同六年に学制が公布されると直ちに公立小学校に移行しました。守拙はこの後長く訓導（校長事務扱い）・校長として小学校教育の充実と研修に努め、教員の資質向上をはかりました。常に礼を重んじ、その人柄から「三島の聖人」と称されていました。三島学校は後に三島尋常小学校になり、明治末に二校に分かれ、三島第一尋常高等小学校・三島第二尋常高等小学校となり、戦

後は東小・南小となっております。



▲吉原守拙肖像

【吉原呼我】

吉原呼我は守拙の養子で、明治初めは開心庵舎の教員でしたが、のちに足柄県の師範学校（葦山）の訓導から、葦山中学校・伊豆学校（現葦山高校）の校長となります。明治一六年（一八八三）に今の三島市役所の地に私塾中権精舎を開設し、およそ十三年にわたり男子の中等教育（漢学・英語など）を行い、俳人・実業家で清水村村長になる賛川他石などの人材を育成します。当時の北伊豆では唯一の中等程度の男子私立学校でした。この後静岡師範学校教諭、名古屋幼年学校の教授を歴任します。春風の中にいるような人柄と伝えられており、門下生に慕われました。



▲吉原呼我肖像

わたしの
おじいちゃんおばあちゃん

当番 みやざわ せなさん

私のおじいちゃんとおばあちゃんは小学校のスクールガードをやっている、おじいちゃんは毎日犬の散歩をしながら小学校のみんなを見守ってくれています。

おばあちゃんはお花が大好きで、お庭はいつもたくさんのお花できれいになっていきます。

私は、いつも笑顔で「おかえり。」と言って、学校の話をしている時も笑顔でたくさんお話を聞いてくれるおじいちゃんとおばあちゃん大好きです。私も2人のように友達に笑顔でいたいです。



宮澤正昭(63才)・久美子(63才)

宮澤 星奈(坂小6年)